

発 言 通 告 書 要 旨 (1枚目/全3枚)

氏 名 荒谷 啓一

発言番号	発言事項及び発言要旨	備 考
1	<p>橋梁長寿命化対策事業（橋梁修繕）について</p> <p>加賀市が管理する橋長2m以上の324橋のうち、建設後50年を経過する高齢化橋梁は147橋で約45%を占めており、これらを5年に1回の周期ですべて点検し、4段階で評価しているとのことである。</p> <p>今回対象となっている山中温泉の風吹橋（真砂町）と黒谷橋（東町一丁目）は、健全度判定区分Ⅲ「道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態」ということだが、一般的にはなかなか分かりにくい。具体的にはどのような状態で、どのような修繕を行うのか。</p>	
2	<p>令和6年能登半島地震による各地区会館の修繕について</p> <p>毎年、各区長会から市に対し、多くの要望書が出されているが、今年度、別所地区の「能登半島地震地区会館修繕工事」が継続要望事項となっているのは、内容的に軽微な損傷であり、昨年度は優先順位が低かったためと思われる。</p> <p>そこで、山中温泉地区以外の20地区会館はすべて指定避難所になっているという観点から、令和6年能登半島地震で被害のあった各地区会館の修繕状況と今後の予定について問う。</p>	
3	<p>令和7年国勢調査における人員体制の課題と負担軽減について</p> <p>今年は5年に一度の国勢調査の年である。加賀市においては若者世代の流出や子育て世代の減少、単身世帯や高齢者世帯の増加など、市民の暮らしの実態は5年前と大きく変化しており、国勢調査はこのような現状を正確に把握し、地方交付税の算定などにも利用される、市政にとっても極めて重要な調査である。</p> <p>しかし、地域の間人関係の希薄化や個人情報保護への懸念などに加え、回答をいただけない世帯への繰り返しの訪問が大きな負担となっており、調査員のなり手不足が深刻化している自治体が多いのが現状である。</p> <p>調査員の確保など人員体制の課題や繰り返しの訪問による負担軽減について、どのように取り組んでいるのか。</p>	

発 言 通 告 書 要 旨 (2枚目/全3枚)

氏 名 荒谷 啓一

発言番号	発言事項及び発言要旨	備 考
4	<p>有害鳥獣警戒体制整備事業について</p> <p>法改正により、市街地に熊などが現れた場合に、市の判断で「緊急銃猟」を行うことが可能となることに伴い、資材の購入費等が本定例会で補正計上されている。</p> <p>近年、加賀市において熊の出没が頻発し、住宅街や学校周辺に姿を現す事例も報告されており、市民の不安は大きく、人命を守るためには、やむを得ず熊を駆除する判断が必要となる場合がある。一方、北海道や秋田県などでは、そのほとんどが地元住民以外からとはいえ、駆除後に「なぜ殺したのか」「もっと他の方法がなかったのか」などのクレームや批判の声が殺到したことが報道されている。</p> <p>このようなことから、今後の緊急銃猟を含む法改正の趣旨を踏まえた市民への説明、広報のあり方、職員のクレーム対応の強化と心理的負担の軽減について所見を問う。</p>	
5	<p>山中漆器産地の生産力低下に対する提案について</p> <p>山中漆器業界には様々な支援をいただいているが、工部（各工程の職人）の後継者問題は、産地全体を揺るがす深刻な問題となっている。</p> <p>業界からは今後の課題として、「空き工房や市の遊休施設などを活用し、産地の生産力低下を防ぐため、新規従事者やリタイア経験者が共に『働ける場所』の設置支援」について提案されている。また、山中漆器伝統産業会館（山中うるし座）は組合事務所と販売スペースのみでなく、地下倉庫などの空きスペースを活用し、後継者育成や生産増強・教育の場、業務・商談の場として施設の付加価値を高めたいということである。</p> <p>かが交流プラザさくらがベンチャー企業を育てるインキュベート施設であるなら、山中うるし座は漆器職人が実業を学ぶためのインキュベート施設にということで、今後の検討課題としての所見を問う。</p>	

発 言 通 告 書 要 旨 (3枚目/全3枚)

氏 名 荒谷 啓一

発言番号	発言事項及び発言要旨	備 考
6	<p>旧北國銀行山中支店の位置づけに対する認識について</p> <p>北國銀行山中支店は令和6年11月の加賀温泉駅前の加賀営業部内への移転に伴い、現在は営業を終了し、空き店舗の状態となっている。都市計画道路・温泉中央南線(本町)の計画策定時に移転は想定されていなかったため、今後の街路事業の進捗に関係はない。地元産業界で売買・賃貸交渉などがあったとは聞かすが、具体的な進展はなく、地元住民をはじめ産業界の新たな関心事となっている。</p> <p>この場所は、松尾芭蕉ゆかりの地であり、「新家家興隆の地」と記された石碑も設置されており、歴史上、旅館や商業施設、銀行があった山中温泉の一等地である。地元では単に「いい場所」というだけではなく、「大事な場所」として認識されている。</p> <p>信頼ある所有者なので心配はないと思うが、今後の山中温泉中心地のにぎわい創出・観光まちづくりにおける位置づけについて、認識を問う。</p>	